

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第5回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（1）今後の活動について

3 開催日時

令和7年9月16日（火）午後6時30分から午後7時59分まで

4 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 研修室・会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・ 委 員：澁市会長、栗田副会長、廣川副会長

飯塚委員、上原委員、北川委員、下村委員、杉本委員、宮崎委員、
村田委員、山岸委員、吉田委員、淀野委員、渡部委員（欠席6人）

・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

・ 佐藤委員、柴田委員、富田委員、町委員、茂原委員、山崎委員を除く14人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【澁市会長】

・ 会議の開会を宣言

・ 会議録の確認：栗田副会長、北川委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）今後の活動について —

【澁市会長】

次第2 自主的な審議（1）今後の活動についてに入る。

前回の協議会で皆さんから今後の活動について様々な提案をいただいた。正副会長と事務局で協議し、候補を三つに絞ったので事務局より説明を求める。

【石黒係長】

・当日配布資料No.1 により説明

【澁市会長】

いろいろな意見があった中で、祇園祭や商店街を活性化させるためにはどうしたらよいのかといった意見が出た。しかし、地域協議会はボアンティア組織で、地域協議会自体が関与できるかどうかという基準に照らしてあまりにも専門的なことは対応することはできないと思う。具体的には、関係条例等で地域協議会の業務、役割等に規定されているかどうかはまず一つ。そして、地域協議会のメンバーの中に活動の内容に関連がある人的資源があるかどうかということ判断基準とした。そして、これからの活動の案として候補を三つに絞った次第である。

まず、1 番目が高田祇園祭を発展させていくための方策を検討する。高田祇園祭に今直接関わっている冨田委員が、高田祇園祭はこのままではますます衰退していくばかりだとおっしゃった。いろいろな資料、あるいは、吉田委員からの説明によると高田祇園祭、直江津祇園祭は400年の歴史があるという。そして、新潟県の無形民俗文化財にも指定されている。ところが、33町内会が高田祇園祭に関わっている中で、町内会自体があまり活発ではないということが影響しているのか、高田祇園祭が昔のように盛り上がるのが少なくなってきた。このままだとますます衰退していくのではないかという意見が多くあったところである。そこで、地域協議会だけではなく関係団体との話し合い等によって現状や問題点を把握し、開催規模の維持、発展に向けた方策を検討することに地域協議会が関わったらどうかという内容である。

2 番目が高田の歴史遺産を活かしたにぎわいの創出。これは高田区地域協議会が作成した地域活性化の方向性の五つの柱に高田の歴史遺産を生かそうということがあるように、高田区には雁木の街並みや高田城址公園、旧師団長官舎や寺町の寺院群

がある。このような歴史遺産を活かして高田区ににぎわいをもたらす方策を検討しようではないかという案である。

3 番目として、地域でのつながりを作るための検討、具体的には地域による子育て世代のサポートと子育て世代の地域への参加、この二つには双方向の関係性があると思うが、このために子育て世代の町内会への参加、町内会と地域活動への参加をどのように促進していくかを検討する必要があるのではないかという意見があった。委員の中に子育て支援分野の専門家がいらっしゃるのでその方のアドバイスを得ながらこれを検討していただろうか。

また、災害時、例えば渇水時に給水車が来て水が配られたが、高齢者は10リットルもの水を運ぶことはできない。そのためには地域の共助、昔でいう隣組の体制が非常に役立つと思うが、私自身住んでいる所でも、昔のような隣同士の付き合いというのはほとんどない。従って、災害時に共助というのはなかなかできないのではないか。こういう現状を何とか改善しようではないかと提案するものである。特に高齢者などの災害弱者のサポートを考えた場合、助け合いの体制をどのようにして作っていったらよいのかということが指摘されて、これは委員だけではなく関係の人たちから話を聞いたり、議論しながら検討していくということが3番目の候補の内容である。

以上が正副会長と事務局が話し合って絞った候補である。そのほかの候補もあったが、例えば、商店街をもう少し永続していくにはどうしたらよいのかということだが、地域協議会が関わる問題なのかという疑問があったので候補には挙げていない。

また、災害時の避難場所の開設、運営に係る問題で、いろいろな疑問が投げかけられたが、この開設、運営にかかる問題点というのは、避難所それぞれで異なる問題点があると理解している。これについては協議会の場で懸案事項を話し合って、事務局を通じて担当課に文書で照会する方法があるのではないかと考えている。正副会長だけで作るというのではなくて、これについては若干の議論が必要だと思っている。

もう一つの問題として、稲田橋付近の関川に土砂が堆積していて、このままだと大雨で洪水を起こすと危惧する意見があった。この問題については事実を文書で市

の担当課に問い合わせ、さらに市の担当課が関川を管理する河川国道事務所に照会したらよいのではないかというのが正副会長と事務局の結論である。

まず、私の説明について質問や意見を伺いたい。

【北川委員】

今後の活動について三つの候補の中から一つを選ぶということか。

【澁市会長】

そういうことではなくて、候補として三つあるうち、どれを最初に取りかかるかは、また議論して進めていけばよいのではないか。あるいは、部会を作ってやるという手もあると思う。やり方についても話し合いたい。また、これは議論の対象にする必要はないのではないかという意見もあってよい。例えば、若者が店を出すですぐ潰れてしまうということについていろいろと問題点を指摘されたが、これはどうして候補に入っていないのだという意見もあると思う。ここで書いたことは最終案ではない。取り上げ方、議論、全部取り上げるなら全部取り上げる、あるいは、これだけとなったらそれでもよいが、三つ取り上げることにしたらどれを優先的にやっていくか、あるいは、それぞれ部会を作るのかどうかも今日の検討事項になる。

【北川委員】

今後の活動というのは、いつまでの期間か。

【澁市会長】

私が考えているのは、我々の任期の2028年の4月までである。

下村委員、子育てについてどうか。

【下村委員】

町内会のあたりがよくわからないので、何を聞かれているのか。

【澁市会長】

地域による子育て世代へのサポートがないというふうにおっしゃっていた。ただ、子育て世代をサポートできるのは、元子育て世代だった人たちだが、町内でも日常的な付き合いが無かったらサポートもなかなかできないと思う。下村委員が指摘された子育て世代のサポートというのはこういうことではないのか。

【下村委員】

そういうことだが、今自分の住む地域、広くすると町内、もっと大きくすると上越市みたいな形で、昔は隣近所とか町内で助け合いができていたと思うが、今はそれが難しくなっている。例えば、オーレンプラザのこどもセンターも上越市内のいろいろな所から利用者がやって来てやっと集まるみたいな感じである。私が普段仕事としてやっていることとは違った地域でのつながり、そのつながりが強くなくてももしかしたらよくて、会長がおっしゃったように顔が見える関係づくりというような、すごく強い結びつきではないけれど、そういう地域になっていけばよいのだろうと思う。そこをどうできるのかというのが課題だが、子育て世帯が本当に昔と比べて減っているの、まずは子どもがいる世帯に周囲の方が関心を持つことだと思う。

【澁市会長】

子育て世代同士の横の連携だったり、市で開催するサークルやセミナーもあると思うが。

【下村委員】

同じ世代の横のつながりというよりも縦横斜めというか、そういうことが協議会で検討すべきことなのかなと思う。言葉では言えるが具体的にどんな関係づくりができるのかはわからない。協議会だから地域のことができるかと思う。

【宮崎委員】

私はこの三つの方向でよいと考えるが、差し当たってやれそうなものという、高田祇園祭の問題、これが一番とりかかりやすいかと思う。今年の祭りを見て本当にお粗末になったと思う。それこそ生まれ育った町、特に地域の中での関係性は本当にどうしようもなくなった。結局、取り組める母体になるものが本当に崩れた。それを心ある人たちがまとめようという気持ちをお持ちになっているのをまとめていくというものがないという状況を見ると、やはり、私たち地域協議会は声を上げて、33町内会や祭りの関係団体等から率直な声を聞くということが一番必要だし、地域協議会でなければできそうにないと思う。

【飯塚委員】

地域協議会が取りかかるとしたら高田の歴史遺産かと思う。みんなで話し合っ、高田ににぎわいをもたらしていけば、1番にも3番にもプラスになってくるのではないかと思った。1番の祇園祭にしても、自分の町内の祭りでもみこしを担ぐ人がほ

とんどいなくて町内会長もすごく苦勞している。町内の祭でさえ人数を集めるのが難しくなっているのに、祇園祭までできるかというのも考えさせられた。

子育てサポートについても、子ども会のほうも見ているが、夏のラジオ体操をやっている所も少ないし、隣近所の子どもたちと挨拶もできない。知らないお婆さんには声をかけられても知らん顔するという具合でサポートもできない。道を聞いても「知らない」と子どもたちも言うから、近所にいてもなかなか難しいなと思う。だから2番の高田の歴史遺産を協議会で進めていけばよいかなと思った。

【澁市会長】

基準は違うが宮崎委員は、皆さんがわかることだからということで、取りかかりやすいのが祇園祭だとおっしゃった。

【山岸委員】

三つの候補を眺めてみると、ほとんどが町内会の方たちが主団体のような感じがする。そこの調整、もしくはそこから地域協議会の人たちにもっとこうしてほしいというのがあるのかと思う。協議会で検討するのは悪いとは思わないが、相手がどう思っているのか、そこが例えば祇園祭にしてもあまり興味を持っていないようであつたら、こちらがいくら策を考えても実効性に欠けるのではないかな。

【澁市会長】

全てについて町内会が関係していると思う。地域協議会と町内会の折り合いが悪いというのも有名な話で、昔喧嘩したようでそれがずっと尾を引いているという。杉本委員がよくご存知だと思うが、杉本委員は町内会長でもあるのでその辺の話が出てくるのではないかなと思っている。町内会が関係するというのは事実で、特に祇園祭は33町内会が仕切っている。その話になると、町内会の方に話を伺わざるを得ないと思う。そこで、地域協議会は何者だという昔の話が出てくる可能性があるが、その辺は上手くやっていく必要がある。杉本委員、その辺の話についていかがか。

【杉本委員】

少し違った話をする。上越まつりの中に祇園祭が組み込まれている。上越まつりの中身を見ると高田、直江津、春日の三つである。13区はもちろんのこと、昭和の合併で一緒になった津有や三郷、諏訪は関係がない。名前と実態が合わない状況がある。

もう少し小さく見て、高田祇園祭というのは、例えば、高田区の町内会長連絡協議会のトップの人がみこしの通らない町内の人だと、みこしってなんだという話になる。だから、簡単にいかない話だと思う。みこしを担いだこともない人がトップにいて、みこしをどうするという議論をしようとしても、私の感覚からすると無理というか無茶だと思う。自分のこととして考えてみれば、自分が関わっていない仕事をトップになってやれと言われたらまずできない。全体的に言うと祇園祭だけの問題ではなくて、ほかの問題でも自分が直接関わっていない問題を扱うというのが大変だと思う。

また、町内会そのものの問題で言うと、例えば、私は母の実家で生まれている。病院で生まれているわけではない。生まれた時から近所の人がみんなかかわっているわけで、生まれたという近所の人がお湯沸かしてどうのこうのというのが始まっていた。そういうことが社会の構造としてあったが、今はそういうものがなくなっている。その中で、そういうものを元に戻すというのは不可能な話だと思う。だからもとに戻すのが不可能であれば、現状の人間関係に合ったようなシステムを考えていかなければいけないだろうと思うが、相当荷が重いのではないかな。

【澁市会長】

相当重いと思う。町内会の関係からまず分析しなくてはいけない。今話があったように50年前の町内会の人間関係と今とは全然違う。そういう違いがあるにも関わらず、行政は自助、共助、公助と言っている。共助というのは町内会を中心とした助け合いだと思うが、言っていること自体が成り立たないのではないかな。

【杉本委員】

候補にはないが、消防団の問題も大変である。

【澁市会長】

そんなに範囲を広げないでいただきたい。

【杉本委員】

広げるつもりはないが同じ問題だと思うので、今、消防団の団員は自分の団の所に住んでいない。私の所は第4分団だが、昔は第4分団のエリアの中に住んでいる人で活動できた。しかし、今はそうではない。柿崎や直江津や新井や妙高に勤めている人が火事になるとそこから集まって活動するシステムになっている。だから、周りの人

での助け合いが物理的に無理な社会体制になっているのに再構築しようなんていうのは根本的に無理だと思う。

【澁市会長】

町内会自体が解散している所もあるらしいので、そういう話にもなってくる。高田区には町内会が70以上ある中で祇園祭にかかわっているのは33町内会と新道区の稲田である。

【澁市会長】

祇園祭の話となると高田地区町内会長協議会の会長とは関係がない。祇園祭に関係する人たちとの話し合いになるわけである。

【杉本委員】

奉賛会と上越まつり委員会というのがある。それが全部関係している。その中でどこにも関係がある団体と言え、かかわり方が違うが商工会議所と上越観光コンベンション協会である。従って方針を出すとすれば、商工会議所が上越まつりをどういう祭りにしようかというのを考えていかないと一歩も進まない。

【澁市会長】

高田祇園祭の話を取り上げるのであれば、まず祇園祭とは何かを勉強しないといけない。400年の歴史をどなたか講義してくれるか。

【宮崎委員】

八坂神社か。

【宮崎委員】

祇園祭の大元は八坂神社なので、八坂神社から我が祭りはこういうものだということ話を話していただくのがよいと思う。

【澁市会長】

非常に興味がある話なので、我々だけではなくて市民に公開してもよいのではないか。ぜひとも勉強会をしたい。

【宮崎委員】

400年の歴史があるのに知らないで明治以降かと思っている人や戦後の祭りだと思っている人がいる。

【澁市会長】

祇園祭というのは一番取りかかりやすい。歴史遺産はそこら中にあるが。

【宮崎委員】

無形民族文化財になった。

【澁市会長】

県指定である。

【宮崎委員】

県指定の無形文化財になったら、行政は一体何をしてくれるのか。今、何にも手を出していない。上越まつりに5千万円ほど出してそれで終わり。

【澁市会長】

まず祇園祭とは何かを知って、どういう問題があるのかを議論しなくては行けない。今の段階ではここで決めることはできないと思う。

歴史遺産の話は、吉田委員が詳しいのではないか。祇園祭についていかがか。

【吉田委員】

高田の歴史遺産というのは、残していかなければならないものがあるのではないか。それを発掘して残していかないと、今後、何かのときに困るのではないか。本町6丁目でも古い家を壊しているが、問屋街だったからできれば蔵は残しておいて、その活用の仕方は今後考えればよい。本町3丁目にあった大光銀行の蔵はもったいなかったなと思う。そのように遺産を残すことによって、横浜の赤レンガ倉庫のように次世代に考えてもらえるチャンスになる。

祇園祭だが、子どもの頃、町内で七夕をやっていた思い出がある。どうして無くなったかわからないが、仙台の七夕のようだった。それが高田の祇園祭だったのかわからないが、学生になった頃には無くなっていた。昔は子どもの人数も多く大人も元気がよかったが今は少ない。直江津と高田では人の気質が違って、直江津の人は祇園祭の相当前から1週間の休みを取るというが高田の人はそうではない。参加しようという気持ちが弱く、サポーターでもなければただの見学者になってしまう。

【杉本委員】

吉田委員の今の話に賛同することが多い。どういう雁木を残すかという議論をしないで雁木を残そうという話になっている。古い雁木がどんどんなくなって近代的な雁木になって、お客さんが来て見るときに今のアーケードみたいな雁木を見に来

るのか、昔ながらの雁木を見に来るのか。

【澁市会長】

作り込みの雁木はあるのか。

【宮崎委員】

ポツポツと残っている。

【澁市会長】

作り込み式とは軒が出ただけの雁木のことである。

【宮崎委員】

作り込み式というところまでいかないが、古い雁木は雁木の上に出ている窓が1メートルくらいしかない雁木というのは、ポツポツとしか残っていない。今、何をやっているかという、それを壊して新しい雁木が作られる。文化財として活用しようとするのであれば、新しい雁木ではなくて、古い雁木をどうやって残すかを考えて、残した後に活用すればよいわけで、壊してしまったら活用のしようがない。そういうことを考えていかないといけないと思う。

【澁市会長】

雁木には二つのタイプがあることを皆さん知らないと思う。

【上原委員】

三つである。

【澁市会長】

三つか。私は城北中学校だったが、社会科の先生が集まる所に二つのタイプの雁木の模型があった。作り込み式と軒だけ出すタイプで、軒だけ出すというのは今の雁木。作り込みというのは雁木の上に部屋がある。

【上原委員】

今は火災の関係でそれができない。

【澁市会長】

建築基準法の関係か。ではダメだ。

【宮崎委員】

昔のまま残っているのは残っている。

【澁市会長】

昔のまま残せるだけだったらよいと。

【宮崎委員】

新しくあの格好で作るのは建築基準法の関係でできない。だから、そういう古い雁木がなくなっていく。

【澁市会長】

それを残すということですね。

【吉田委員】

本町のイベントに行くと、旅から来た人が「雁木を見たい」と言うので、「これも雁木です」と言ったら、「これは雁木ではない。本当の雁木を見たい」と言われる。時間があったら四ヶ所まで行くしかない。保坂邸の手前である。

【村田委員】

高田の祭りとか歴史的なものというのは、私個人の中でそんなに課題として上がってこない。最近あちこちで古い家屋を壊して更地する作業、あるいは建て替えの作業は進んでいる。町中を見ると大きな重機が作業していたりして、この町がどう変わろうとしているのかなというのは、将来的にどんな方向に進むのかというのは興味があるが、現状では一番関心があるのは、地域の医療であったり災害時の対応として、冬に向けての準備がどうなのかをもう一度再確認しておく、再点検しておく必要があるのではないかというのが、今の時点での私の中での意識である。線状降水帯、降雪帯で大量の雪が一気に降るという可能性が考えられる現状のもとで、備える必要があるのではないか。現在の私の課題意識だが、皆さん、率直なところはどうか。

1番、2番のような課題を皆さんで、これをやろうという気持ちになれるかどうかを意見を出し合いながら決めたいと思う。

【澁市会長】

災害時に問題になるようなことを想定して、それをどのように対処していくかということを考えるということか。

【村田委員】

今のままで充分という結論に至るかもしれないが、昨年、市のほうの対応、豪雪の時の後の対応とか、いろいろ検証されたので。

【澁市会長】

3 番目の候補においても災害時の弱者をどうするか、どう助けるかということは一つの問題点として上がっている。医療の問題というのを取り上げたら非常に難しい。我々が対処できるような問題ではなくて、行政の問題だと思っている。

【村田委員】

一人一人地域住民にとっては切実である。

【澁市会長】

地域協議会としてどういう問題があるかということは、議論してもよいと思う。
具体的にその医療についてどういう問題があるとお考えか。

【村田委員】

今それを発言する準備はできていない。この提案に対しての意見ということで、発言させてもらった。

【澁市会長】

追加で提案していただいても構わないが、いかがか。

【淀野委員】

私も祇園祭の歴史などを勉強していきたいという気持ちが強い。そもそも高田の歴史遺産を活かしてとあるが、高田の歴史遺産にどんなものがあるのか正直わからない。そこら中にいろんな蔵があるということも伺うから知るだけで、私に限らず高田の人たちもよく知らないのではないかと感じた。広報上越でも最後のページにそういう遺産が掲載されていた時期があったが、紹介してもらうことが大事なのかなと思った。話し合うにしても、どういう遺産があるのかを知らない。

稲田橋の土砂に関連して、青田川の堤の下に今草が生えているが、あそこは遊歩道である。大雨で増水した時に土砂が被ってそのままにしていたので草が生えてきて、草刈り作業でお金がかかっていると思うが、あそこも堤の桜が綺麗な所として知られてきている。町内会で管理しており、東本町はきれいになっている。

【宮崎委員】

個人でやっていたり町内でやっている。全体的には青田川を守る会が取り組んでいる。

【上原委員】

青田川周辺の草刈りは、市がやるのは年 1 回だけであとは町内会管理である。町内

によっては全くしない所もあるし、自分の町内は年2回から3回行う。それも有志をお願いしてするしかない。

【淀野委員】

私知っている東本町のあたりの。

【澁市会長】

関川ですよ。

【淀野委員】

いや、青田川である。

【上原委員】

東本町ではなくて、あそこは北城である。ナルスの向かいですよ。

【飯塚委員】

高速バスのバス停がある所ですよ。あそこも今は草が茂っているが、それより下の方はきれいである。

【淀野委員】

きれいですよね。町内会で月に2回清掃活動をされている。そこも町内会の活動で維持されている環境らしいが、結局その人手がなくなってきて、昔よりも整備されなくなってきた。

【澁市会長】

青田川の管理は県である。一級河川である。県だが市が管理しているのか。河川敷の中は本来ならば、県がやらなくてはいけないことをやってあげている。

【淀野委員】

それはわかっているが、私が言いたいのは、土砂の状況ということを見ると、ブロックで舗装してあって、階段でも降りれるようになっていて、おそらく花壇のある所もあったと思うが、土砂に埋まったままにしていたために草刈り作業をしなければいけないという状況になっていて、遊歩道としても機能しない。それも、どちらかという災害時に問題になってくるのではないかな。

【澁市会長】

問題の大きさは、関川というのは本流でもっと大きい。青田川は支流である。

【淀野委員】

それはどちらでもよい。それで、歴史遺産を活かしたにぎわいの町ということにも関係すると思うが、桜の名所として知られる所で、下の遊歩道の整備についてもきっかけがあるとよいと思う。

【澁市会長】

遊歩道の話か。

【淀野委員】

大分土砂が溜まっているが、あの下にブロック敷きの遊歩道が埋まっている。それも一つの地域の遺産になるかと思う。暑い夏に水辺の景観というのは非常によい景色になってくるのではないか。中高生の居場所という話があったが、若者が学校帰りに立ち寄れる、そういう環境になりえるのではないか。

【澁市会長】

要するに、青田川の河川敷をもう少し整備したらどうかということか。

【淀野委員】

いろいろな要素が含まれている。あと、やはり町内会で維持することが多いということであれば、町内会の活動が滞ってきているという現状では、また違う管理の方法をしないといけないということだと思う。地域協議会と町内会が連携することも大事なことだと思うので、我々も町内会の皆さんと仲良くするきっかけも必要なのかなど。それがないと始まらないような感じもする。

【澁市会長】

今日は結論が出ないと思う。

【吉田委員】

今の補足で、青田川の手町付近だと思うが、あそこで地域協議会ができた当時、東本町3丁目の町内会長が中心になって、地域活動支援事業を活用して8月の初旬に川をせき止めて錦鯉すくいを数年間やっていた。そういう場所だった。皆さんが川を整備したり、花壇を作ったり、結構手間をかけてやっていた地域である。

【渡部委員】

今お話しを伺っているのは町内のことか。一生懸命やってらっしゃっている団体とか町内会の方がいらして、それぞれ何もしていられないわけではないけれど、祇園祭は続くのかという問題がある。歴史遺産といっても今のままで続いていく

のか、子育ても昔みたいにみんなで助け合っという時代ではないので、何かシステムにしていけないといけないといういろいろな状況がある中で、地域協議会として、例えば、勉強して方策を検討するといっても本当にできるのか。地域協議会に求められているのかというところもある。このままでは高田の祇園祭が無くなるという課題意識は皆さんあって、でも実際にやっている奉賛会の皆さんは、「いやオレたち頑張ってるよ」と、どういう課題意識があるかどうかがわからないから、行政が間に入って、いろいろな関係団体等呼んでどうしたらよいかというふうにやっていただいて、その問題点を全部明確にするくらいしか私は思い浮かばないが、その調整役は協議会にはできないと思う。そこまで勉強してエネルギーをかけてというのは、やはり厳しいのではないかなと思う。勉強はできるけれど、では、関係者の皆さん集まってくださいと言って、どうしたらよいかというところをゴールに設定するのは厳しいのではないかな。誰がゴールを設定するのかと言ったら、行政かコンベンション協会かわからないが、第三者的な方にやっていただいたほうがよいのかなと思う。

それは歴史遺産のほうもあって、どうやっていったらよいか、にぎわいをもたらす方策として、とりあえずそこを探るというところもある。草刈りをやっているかと言ったら、私の所は全然やっていないし、何か活動しているかと言うとそうではないので、勉強して、例えばこの中で分科会があって、その中で勉強してみんなでなんとかやりましょうというものはあるかもしれないと思うが、やはりエネルギーが結構かかると思うのと、課題がどこにあるか、ゴールはどこというのは明示ができないと思った。きれい事ではいくらでも言えるが、そこまで達していくには、どう階段を設定したらよいのかとか、私は高田の生まれで祇園祭、子どもの頃はとてにぎやかで祭りになるとみんな帰ってきたりとか、直江津はまだそういうところが残っていて、一週間休んでとかそういうのがよいと思う。だから遠くにいても、帰ろう、将来は戻ってこようとか思う。私も祇園祭で踊ったが、上越高校、関根学園高校、上越教育大学、看護大の生徒さんたちが参加して踊ってくれている。だから、この間に元気に盛り上げていかないとと思う。どうしたらよいかと言われるとよい案もないが、町内会に言っても、「いや、子どもが少なくて、俺たちもボランティアだし」と言われる。大変だなということは皆さん思っていらっしゃるので、地域協議会として、どういう役割があるのかというのはよくわからない。

【澁市会長】

非常に難しい点を指摘されたと思う。例えば祇園祭にしろ、歴史遺産にしろ、我々は中身を知らない。どういう問題があるのか、課題があるのかもわからない。課題が把握できれば、それによって今おっしゃったようなゴールというか、目標を設定できると思うが、何もない中でゴール設定は難しいのではないかというのは、私はその意見には同意できない。もう少し知らなくてはいけない。知って、祇園祭がある程度盛んになれば活性化ということが達成できたと思う。今までは33町内会だけでやっていて、ほかのところから入っていくことはあまりしなかった。33町内会の外の町内会の人たちは、指をくわえて眺めているだけだった。高田区には70以上の町内会があるが、そのうちの33町内会が祇園祭を仕切っている。詳しいことは知らない。勉強しないと分からない。もう少しそれを活性化するといったら、参加の範囲を広げるという手もあるし、どういうふうに考えていらっしゃるのかということも伺わなければならないと思う。上手くいくかどうかはわからないが、地域協議会がそこにどんな役割を見出すのかと言われても、非常に難しい問題だと思う。

【下村委員】

今お話を聞いていて、私たちも今三つの課題を知りたいと思ったのではないかな。祇園祭がどこどこ、御旅所はどこでとか、山車はどこで、それを知りたいと思うことが、地域を愛するような形になっていくのかなと思う。実行部隊になれるとしたら、青田川の周辺を歩いてみるとか、街歩きツアーを何本も企画したい。ツアーには地域をよく知った人がガイドになるとか、その計画を協議会で練って何本もツアーを打っていくみたいな、そのようなことができれば面白いなと思った。実行部隊にはなれないのであれば、難しいかもしれないが、課題だけと言っていると、勉強していかなければならないし、魅力がいっぱいあるということがすごくわかったので、それを活かせたらよいと思う。

【澁市会長】

地域協議会は実行部隊にはなり得ない。地域協議会の下請けとして下村委員がトップになって実行部隊を作るのは構わない。そこに地域独自の予算を活用するということは可能だと思う。

【下村委員】

ほかの地域では、地域協議会が夏休みの子どもの学ぶ場所を作ったと聞いた。

【澁市会長】

それは地域協議会がやったのではなくて、地域協議会のメンバーがそういうことをやったのだと思う。

今日は話がまとまらないが、ただ、感じとして全くやらないというわけにもいかない。

【飯塚委員】

テレビを見ていると、いろいろな県で昔からの伝統行事が復活されている。高田も昔からいる方に話を聞いて、祇園祭とかを盛り上げていけるように地域協議会は主体になれないが勉強して行って、そういうのをまた復活させるようにできないかと思った。いろいろところで今年はこれを立ち上げた。何十年も前にやっていたが、しばらくやらなかったものを山形とか秋田の方もやっている。高田もそういうのを勉強しながら、山間部の方も巻きこんで、高田のこういうところでやろうというのができないかなと思う。

【廣川副会長】

皆さんの話を聞いていて、まだ知らないことがいっぱいあるので、三つの候補それぞれについて詳しい人に来ていただいて、20分から30分くらい現状と課題を聞かせてもらうような機会があるとよいと感じている。

【澁市会長】

学習会とか、研修会ですね。

【廣川副会長】

祇園祭に詳しい人、歴史遺産に詳しい人、地域とのつながりを作る、例えば子育て世代の関係作りとか、災害時の一人暮らしの高齢者支援など地域として安全に向けてさっと動けるような、そういうことを一生懸命やっている町内もあると思うので、そういう現状とか課題を聞かせてもらえるような場面があると、協議会で話し合いを進めてそれを今後の活動中に活かせるのではないかなと思う。

【上原委員】

高田祇園祭を盛り上げていただくのはとてもよいことだが、現状33町内会が負担している金額は町内会費をものすごく圧迫している。コロナでできなかった期間

があり、御旅所を作るために借金をしている。その返済で町内会の負担金が今回上がった。まだ借金をしている部分があるので、また増やさなくてはいけないという問題を抱えている。そういう問題が33町内会に降りかかっている。

御旅所をどうするかという問題がまずある。皆さんが直江津と比べて高田はと考えるのも分かるが、祇園祭の負担金が町内会を圧迫しているという現状があることを頭の片隅に置いていただきたい。

【澁市会長】

富田委員が御旅所を作るだけで100万円単位のお金がかかると言っていた。みこしをそこに置くのは1泊だけか。

【上原委員】

24日に入れて、25日に中日祭をやって、26日に移動する。

【澁市会長】

2泊か。どこかに置いてある組み立て式の材料をあそこに建てるのだと思うが、それがどうして数百万かかるのか知らない。

【上原委員】

コロナで3年間ぐらい作れなかったために、一度材料が使えるかどうか確認するため作って壊した金額があり、それが負担になっている。もともと高いのにそういうことをやって人件費がもっと跳ね上がって、その負担金が今回、各町内会に求められた。

【澁市会長】

町内会の会員の数も減っている中、大変である。

【宮崎委員】

大筋では違っていないが、若干違うところもある。

【廣川副会長】

上越まつりの協賛金は関係町内会だけではなくて、上越市内の全部の町内会から負担はされているのか。

【宮崎委員】

全部の町内会ではない。高田区と直江津区だけ。直江津は五智も入っている。

【廣川副会長】

謙信公祭とかやっている地域はどうか。

【宮崎委員】

謙信公祭は春日区の行事だからこれとは違う。ただ、上越まつり実行委員会に市から5,000万円くらい出る。謙信公祭のほうに3,000万円くらい、高田と直江津の祇園祭に残りを振り分けるが、高田祇園祭には500～600万円くらい。直江津のほうに比重がある。

【栗田副会長】

上越まつりと祇園祭というのは同じように見えるかもしれないが、全然違う話である。上越まつりは全体の話、だから、今のような分け方をする。

【澁市会長】

同じ期間であるが。

【栗田副会長】

期間は別、謙信公祭は別にして商工会議所とか、観光コンベンション協会なども含めて上越まつりでやるのだけれど、祇園祭は神社の祭りだから範囲が決まっている。八坂神社の所は、直江津から来て藤巻で終わっている。そこから先は、陀羅尼八幡宮の所は北本町で1回止めるが、あそこからは別の話になるので、地域がみんな分かれている。だから、直江八幡も3町内しかやっていない。うちの町内は直江八幡の隣でよく見えるけどうちに入っていない。日枝神社は日枝神社でやるし北城はまた別でやるので、それぞれの神社の祭りである。そうすると高田、直江津と分けても、祇園祭は祇園祭である。上越まつりという呼び方をしなければならないのは、祇園祭は神社の祭り、宗教行事であるので高田と直江津、それに謙信公祭も含めて上越まつりという言い方に変えた経緯がある。

【吉田委員】

町内会の負担金についても、祇園祭についても詳しいところを知らないなので、どなたかから説明してもらうのが一番ではないか。

【澁市会長】

祇園祭というのは歴史的な遺物である。私も子どもの頃は楽しみにしていた。33町内会だけに参加資格があって、自分たちは眺めていただけだが、日枝神社の場合は自分たちが氏子だから別である。

現状どうなっているのかを勉強させてもらって、高田区の活性化には切っても切れない大事なものだと思う。これがなくなったら死んだ町になってしまう。

【吉田委員】

謙信公祭にお金を使って、こっちのほうの予算がない。そんなことがあったら問題である。こっちにどれくらいの予算がきているのか、いろいろ聞きたいではないか。

【澁市会長】

みこしが来るのは北本町2丁目か。

【宮崎委員】

直江津から来るのは陀羅尼八幡である。白山神社まで一旦行って、陀羅尼八幡で1泊する。24日は北本町4丁目から表祇園と言われている所を通して御旅所に納める。

【澁市会長】

その辺の話は聞きましょう。

【飯塚委員】

災害時の避難場所の開設運営を今、町内で。

【澁市会長】

それは次回話しましょう。

どういう問題があるのかということで、確かに問題があるというのは分かるが、飯塚委員が言う避難場所と私が言う寺町の場合は全然違うと思う。どういう手順でどういう問題があるのか我々の範囲でピックアップできる。それを事務局を通じて出すというふうに考えている。

【宮崎委員】

共通する課題と個々の内容によって違ってくる問題と分けて考えなければならぬ。

【澁市会長】

今回はこの今回のまとめと、特にそのほかの対応のところ、稲田橋付近の河川の土砂の問題というのは単純な話だから、市を通じて高田河川国道事務所に対応をお願いするということになると思う。ただ、災害時の避難場所の開設についての問題点は、皆さんが一番よく知っているので、それを発表していただくというふうにしたい

と思う。それでよろしいか。

以上で、次第2 自主的な審議(1)自主的な審議今後の活動についてを終了する。

― 次第3 事務連絡 ―

【澁市会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第5回地域協議会：10月27日(月) 18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

第6回地域協議会：11月17日(月) 18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

【澁市会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問等を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL：025-522-8831(直通)

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。